

釧路港 開港 120 周年

釧路市 水産港湾空港部 港湾空港振興課

釧路港は、明治 32 年(1899 年)8 月 4 日に普通貿易港に指定され、昭和 26 年(1951 年)には重要港湾として指定となり、令和元年(2019 年)に開港 120 周年を迎えました。

この間、国際貿易港としての競争力の強化を図るべく、外資コンテナ用ガントリークレーンの新設にあわせた国際コンテナターミナルの拡張などの整備を進めるとともに、耐震・旅客船ターミナルが平成 23 年(2011 年)に供用開始となり、近年は多くのクルーズ船が寄港するなど、港湾機能の高度化に努めてきました。



耐震・旅客船ターミナル

また、平成 23 年(2011 年)5 月に国から酪農業・畜産の基盤強化や競争力強化、並びに国民に対する安全安心な食糧供給を目的とする「国際バルク戦略港湾」の指定を受け、平成 26 年(2014 年)度から、大型パナマックス船の入港が可能な水深 14m の施設整備を進め、平成 30 年(2018 年)11 月に全国で最初となる国際バルク戦略港湾の施設整備が完了し、平成 31 年(2019 年)3 月からは釧路西港開発埠頭(株)による運営が開始されています。



バルク関連施設

・釧路港開港 120 周年記念写真展

第 72 回「くしろ港まつり」の開催期間である、8 月 2 日から 4 日までの期間で釧路市観光国際交流センターにおいて、釧路港開港 120 周年を記念し、釧路港の歴史を振り返る写真展を開催しました。

写真展については、釧路開発建設部港湾事務所や釧路新聞社などの協力により資料を提供いただき、明治後期からの状況をはじめとして、釧路港の時代の移り変わりを写真によって紹介しました。

また、同時に、今まで釧路港に寄港したクルーズ船の紹介パネルやクルーズ船からの記念品も公開したほか、平成 30 年度に実施したクルーズ船フォトコンテストの入賞作品も展示されるなど、多くの市民の方々が会場を訪れ、熱心に写真や記念品に見入る姿がうかがえました。



釧路港開港 120 周年記念写真展
(釧路市観光国際交流センター)